精神保健福祉援助実習プログラム内容と特徴

●精神保健福祉援助実習指導及び精神保健福祉援助実習のねらいと教育内容●

本学にて開講している「精神保健福祉援助実習指導Ⅰ」・「精神保健福祉援助実習指導Ⅱ」・「精神保健福祉援助実習指導Ⅲ」及び「精神保健福祉援助実習」は、精神保健福祉士受験資格を得るための指定科目にあたり、これらの科目の教育内容（ねらいと教育に含むべき事項）は、以下の表のようになっています。

本学では、「ソーシャルワーク実習指導」の内容を3年次前期の開講科目「精神保健福祉援助実習指導Ⅰ」と、4年次前期開講科目「精神保健福祉援助実習指導Ⅱ」及び4年次後期開講科目「精神保健福祉援助実習指導Ⅲ」において、学習することになっています。また、「ソーシャルワーク実習」は4年次の夏期休暇を中心に、精神科病院(90時間)と障害福祉サービス事業所等施設(120時間)にて計210時間の実習を行います。

※「精神障害者の保健及び福祉に関する科目を定める省令（令和2年3月6日一部改正）」 別表1

科目名	教育内容	
	ねらい	教育に含むべき事項
ソーシャルワーク実習指導 （※本学では関係省通知に基づき、「精神保健福祉援助実習指導Ⅰ」・「精神保健福祉援助実習指導Ⅱ」・「精神保健福祉援助実習指導Ⅲ」の科目名で開講しております。）	① ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習の意義について理解する。 ② 精神疾患や精神障害のある人のおかれている現状を理解し、その生活の実態や生活上の困難について理解する。 ③ ソーシャルワーク（精神保健福祉士）実習に係る個別指導及び集団指導を通して、精神保健福祉士が行うソーシャルワークに係る知識と技術について具体的かつ実践的に理解し実践的な技術等を体得する。 ④ 精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ⑤ 具体的な実習体験を、専門的知識及び技術として概念化し理論化し体系立てていくことができる能力を涵養する。	次に掲げる事項について個別指導及び集団指導 ア：ソーシャルワーク実習とソーシャルワーク実習指導における個別指導及び集団指導の意義 イ：精神保健医療福祉の現状（利用者理解を含む。）に関する基本的な理解 ウ：実際に実習を行う施設・機関・事業者・団体・地域社会等に関する基本的な理解 エ：精神疾患や精神障害のある当事者の語りに触れる体験 オ：現場体験学習及び見学実習 カ：実習先で必要とされる精神保健福祉士としてのソーシャルワークに係る専門的知識と技術に関する理解 キ：精神保健福祉士に求められる職業倫理と法的責務に関する理解 ク：実習における個人のプライバシー保護と守秘義務の理解（精神保健福祉士法及び個人情報保護法の理解を含む。） ケ：「実習記録ノート」への記録内容及び記録方法に関する理解 コ：実習生、実習担当教員、実習先の実習指導者との三者協議を踏まえた実習計画の作成サ 巡回指導（訪問指導、スーパービジョン）シ 実習記録や実習体験を踏まえた課題の整理と実習総括レポートの作成ス 実習の評価全体総括会

科目名	教育内容	
	ねらい	教育に含むべき事項
ソーシャルワーク 実習 （※本学では関係省 通知に基づき、「精神 保健福祉援助実習」 の科目名で開講して おります。）	① ソーシャルワーク実習を通して、精神保健福祉士としてのソーシャルワークに係る専門的知識と技術の理解に基づき精神保健福祉現場での試行と省察の反復により実践的な技術等を体得する。 ② 精神疾患や精神障害、メンタルヘルスの課題をもつひとのおかれている現状に関する知識をもとに、その生活実態や生活上の課題についてソーシャルワーク実習を行う実習先において調査し具体的に把握する。 ③ 実習指導者からのスーパービジョンを受け、精神保健福祉士として求められる資質、技能、倫理、自己に求められる課題把握等、総合的に対応できる能力を習得する。 ④ 総合的かつ包括的な地域生活支援と関連分野の専門職との連携のあり方及びその具体的な内容を実践的に理解する。	① 学生は、精神科病院等の病院での実習において、患者への個別支援を経験するとともに、次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受けること。 ア：受診前や入院時又は急性期の患者及びその家族への相談援助 イ：退院又は地域移行・地域定着支援に向けた、患者及びその家族への相談援助 ウ：入院患者と外来患者及びそれらの家族への多職種連携による支援 エ：病院外の関係機関・団体及び地域住民との連携を通じたソーシャルワーク ② 学生は、精神科診療所での実習において患者への個別支援を経験するとともに、次に掲げる事項を経験し、実習先の実習指導者による指導を受けること。 ア：受診前や治療中の患者及びその家族への相談援助 イ：日常生活や社会生活上の問題に関する、患者及びその家族への相談援助 ウ：外来患者及びそれらの家族への多職種連携による支援 エ：地域の精神科病院や関係機関・団体及び地域住民との連携を通じたソーシャルワーク ③ 学生は、障害福祉サービス事業所及び行政機関等、精神科病院等の医療機関の実習を通して、次に掲げる事項をできる限り経験し、実習先の実習指導者による指導を受けるものとする。 ア：利用者やその関係者、施設・機関・事業者・団体・住民やボランティア等との基本的なコミュニケーションや人との付き合い方などの円滑な人間関係の形成 イ：利用者理解と相談支援ニーズの把握及び相談支援計画の作成 ウ：利用者やその関係者（家族・友人・近隣住民等）との相談支援関係の形成 エ：利用者やその関係者（家族・友人・近隣住民等）への権利擁護及び相談支援（エンパワメントを含む。）とその評価 オ：精神医療・保健・福祉に係る多職種連携をはじめとする相談支援におけるチームアプローチへの参加

		力：精神保健福祉士としての職業倫理と法的義務の意味の考察と遵守 キ：施設・機関・事業者・団体等の職員の就業などに関する規定の遵守と組織の一員としての役割と責任への自覚 ク：施設・機関・事業者・団体等の経営やサービスの管理運営の観察 ケ：当該実習先が地域社会で果たす役割の考察と具体的な地域社会への働きかけとしてのアウトリーチ、ネットワーキング、社会資源の活用・調整・開発場面の観察 コ：実習先施設・機関や所属地域における精神保健福祉向上のための課題発見と政策提言に関する考察 サ：実習体験及び学習成果の考察と記述、プレゼンテーション実習総括と精神保健福祉士としての学習課題の明確化、及び研鑽計画の立案 ④ 学生は、実習体験と考察を記録し、実習指導者によるスーパービジョンと、ソーシャルワーク実習指導担当教員による巡回指導及び帰校日指導等を通して、実習事項について個別指導や集団指導を受ける。 ⑤ 実習指導担当教員は、巡回指導等を通して実習指導者との連絡調整を密に行い、学生の実習状況についての把握とともに実習中の個別指導を十分に行うものとする。

※上記科目の詳細につきましては、大学全体のシラバス検索データベースにて検索のうえ、
閲覧ください。